

SWG活動、および関連事項に関するご意見

2013年2月14日
ジャパン・クラウド・コンソーシアム
M2M・ビッグデータWG

いただいたご意見のサマリ

企業名	テーマ	ご意見の内容
ドコモ・システムズ様	SWG活動について	実証実験についての目的やゴールのイメージ、およびそれぞれの作業量についてのご質問など (次ページ以降に詳細)
伊藤忠テクノソリューションズ様	SWG活動について	具体的に自治体を巻き込んで実証実験できるとよい
数理先端技術研究所様	SWG活動について	SWG活動の中での具体的な状況分析のテーマについて (次ページ以降に詳細)
数理先端技術研究所様	個人情報について	個人情報についての取り組み方、方向性などについてのご意見 (次ページ以降に詳細)

SWGの活動の進め方と計画についてのご意見(1)

- (1) ゴールとしている「考察・提言」は、世間一般へ向けての提言なのか、それとも、特に実証実験に協力頂いた自治体向けへのものとして作成し、それを一般に公開する方向になるのか。
- (2) 以下について、実証実験の実績をふまえ解決・実現方法や回答として提言していくイメージなのか。
 - ・データをどう活用していけるのか
 - ・ビッグデータ・M2Mはどの分野に有効なのか
 - ・何が必要か(どのような人材・技術・環境が必要か)
 - ・現状の世の中のリソースでどれだけのコストがかかるのか
- (3) 新しい価値・分野・サービスを提言(この場合自治体様≒市民利益)していく事なのか、それとも手法や実現手段(どちらかといえばプロダクト側向け)を提言していくのか
- (4) 活動項目で、特に作業量が重いと思われる以下の4つについて、それぞれの作業量のイメージはどうなっているか。
 - ・作業2. 協力自治体への持ちかけ(実証実験で実験するサービスのイメージ創出)
 - ・作業3. 環境(リソース・方式)準備
 - ・作業4. データの収集
 - ・作業5. 分析作業の実施これら作業単位でSWG化していく方式もありえるのかどうか。

SWGの活動の進め方と計画についてのご意見(2)

(1) スケジュール案について

2013年4Qまでに提言を行うということですが、1年という実証実験期間を主軸として自治体の賛同を得やすい内容を検討する必要があると思われました。つまり、実証実験中、実証実験後もサービスの継続が可能なスキームがあると自治体も公共サービスの模索として賛同いただけないかと思いました。

自治体を主な場として活動するのであれば、賛同を持ちかける段階である程度の範囲でも自治体(の中に生活する方々)への利益(自治体のサービス向上など)が実証実験中に明確に打ち出せる内容であると賛同も得やすいかと思えます。

これについては実証実験の目的である必要はなく、実証実験の過程で導きだされる結果をアウトプットしていくというスキームがあればよいのかもしれませんが。

(2) 上記についての案件イメージ

ざっくりとした要件としては、「今後の社会システムとして機能しうるだけの拡張性、可用性を備えたシステム」ではないかと思えます。

収集したデータについてシステムのある層において他のシステムとの連携を想定したオープンな設計が組み入れてあれば、データの利用がより円滑に行えるシステムを提示できます。

少し先の議論かもしれませんが、具体的にはオープンガバメントやオープンデータの絡みでLinked Open Dataなどの話題があります。

M2Mではなくて収集後データ解析を行う前後のファイル形式として有用ではないかと思っています。

如何に収集するかというよりも如何にデータをアウトプットするかが重要。

SWGの活動の進め方と計画についてのご意見(3)

メール案のSWG活動計画にからめて以下の分析を希望

「電力生産消費網の状況分析」

この後円安の方向と、太陽光発電などの推進を分析したい。

「スマートシティ構想の状況分析」

今後、7割の人口が都市に住む時代になるということを踏まえていろいろ状況分析したい。

個人情報についてのご意見

■ リテラシー

ここは全国民、全人類が理解したと仮定して進む。そう考えなければ前向きな提案はできない。
理解浸透は教育、学習の問題として全国民のテーマとして考えるべき

■ 個人を特定できる属性

BigData解析が進むといくつかの属性の組み合わせで個人が特定できるようになる。即ち時代とともにデータさえあれば個人が特定できるようになる。

例)行動パターンで絞り込めるし、遺伝子情報パターンはそのもの

■ 安全、安心との関連

個人情報知られると身に危険、経済的に不利になる場合がある

■ プライバシーとの関連

一人はプライバシーが他者に知られるのが基本的に嫌である。

個人は他者との関係において

- ・知らせたくない「自分の情報」が相手によって違う。 例)年収は雇用者以外に知られたくない。
- ・知らせたい「自分の情報」が相手によって違う。 例)医者には病状、恋人には自分の良いところ
- ・どちらでも良い「自分の情報」がある。 例)好きな食べ物

ープライバシー情報の出し手、受け手

出し手は、受け手によってプライバシー情報を変える

プライバシー情報(出し手、受け手) = 個人情報 + プライバシー情報属性

受け手によってプライバシー情報を変化させる制御はまだできていない。

ー社会貢献との関連

世の中が必要としていけば、プライバシー情報属性は提供したい。医療情報は公開によって社会貢献になる。

ービジネスとの関連

個人にとって利益が得られれば公開したい人もでてくる。組織にとって利益になれば提携したい企業もでてくる。

プライバシー情報は何らかの知財と考えられないか。そうするとビジネスが考えられる。

経済性と個人プライバシーは両立する解があるのでは。

個人情報についてのご意見(つづき)

■ 利便性、セキュリティ、プライバシー

このさんすくみ状態の時代変化を如何に先読みして制御方法を考えられるかが常に重要である。

■ 知財としてのデータの価値

機密保護の対象になる情報についての考え方。

■ オープンデータとの関連

オープンによって経済の活性化がはかれる。

オープン化戦略の国、企業、個人の対応方法について考える。

オープン化は避けられない。(自然法則、エントロピー増大の法則)

クローズ情報は国、企業、個人の他者への優位性を保つもの、ただし、いずれ追いつかれる。

その時間間隔の制御方法を検討したい。

SWG幹事

以下の企業様よりSWG幹事のお申し出をいただきました。

数理先端技術研究所 様

どうもありがとうございます。